

第1学年 美術科学習指導案

令和7年10月30日第5校時
中学校1年 組 名
指導者

1 題材名 レザークラフト～生活を彩る革小物～

2 題材について

(1) 生徒観

本学級の生徒は、1学期は色のしくみや構成美の要素、レタリングを学習した。そして、色鉛筆とアクリルガッシュで絵文字のデザイン活動を行った。美術科の授業に対しては、意欲的に活動に取り組むことができる。絵を描くことやものづくりが好きで、自分で発想・構想することや、独自のアイデアを考えて表現することが好きな生徒が多い。しかし一方で、見通しを持って根気強く、主題を迫及しながら制作していくことを苦手とする生徒もいる。

(2) 教材観

本題材では、革を使ってコインケースを制作する。制作は、デザインの構想、刻印、縫い、染色、仕上げといった複数の工程を経る。革の特性を理解し、それを生かしながら使用する人に合わせて色や形など、デザインの構想を練る。そして、計画的に根気強く装飾を施し、縫い付ける。その後、染色をして、仕上げの作業と多くの工程を踏みながら1つの作品を完成させる。本題材を通して、先の見通しを持って根気強く制作に取り組む完成させる充実感や喜びを味わわせたい。また、それぞれの個性やよさを発揮しながら、作品を完成させていく楽しさを感じてほしいと思い、本題材を設定した。

(3) 指導観

革という素材は身近な生活の中で使われていて、親しみをもちやすく、完成させた作品も長く使うことができる。また、使い込むほどに柔らかく手になじみ、愛着をもって使うことができる。使用する人の気持ちを考えて、その人に似合うデザインや色、革という素材の特性をもとに主題を生み出し、豊かに発想し構想を練らせたい。そして、一生懸命に夢中になってつくるという体験をさせたい。また、刻印棒を使うことで、比較的容易に美しい装飾ができる。縫い付けや染色も高度な技術は必要なく、誰もが作品を完成させる達成感を味わうことができると考える。

3 題材の目標

(1) 「知識及び技能」に関する題材の目標

- ・形や色、質感などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴をもとに、革ならではのよさや美しさを全体のイメージで捉えることを理解する。〔共通事項〕
- ・材料や用具の特性を生かし、工夫して表現する。（「A表現」（2））

(2) 「思考力、判断力、表現力等」に関する題材の目標

- ・使用する者の気持ち、革の特性などから主題を生み出し、使いやすさと美しさなどの調和を考え、表現の構想を練る。（「A表現」（1））
- ・目的や機能との調和のとれた美しさを感じ取り、表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げる。（「B鑑賞」（1））

(3) 「学びに向かう力、人間性等」に関する題材の目標

- ・制作を通してものづくりのおもしろさや喜びを味わい、やりがいを感じながら、革の素材を生かして表現したり鑑賞したりする学習活動に取り組もうとする。

4 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>知 形や色、質感などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴をもとに、革の美しさを全体のイメージで捉えることを理解している。</p> <p>技 材料や用具の特性を生かし工夫して表現している。</p>	<p>発 使用する者の気持ち、革の特性などから主題を生み出し、使いやすさと美しさなどの調和を考え、表現の構想を練ることができる。</p> <p>鑑 目的や機能との調和のとれた美しさを感じ取り、表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げることができる。</p>	<p>態表 ものづくりのおもしろさや喜びを味わい、やりがいを感じながら、主体的に主題を生み出し、革の素材を生かした表現の活動に取り組もうとしている。</p> <p>態鑑 主体的に革の特徴を生かしたデザインの美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどの見方や感じ方を深める鑑賞の活動に取り組もうとしている。</p>

5 指導と評価の計画（全10時間）

時間	ねらい・学習活動	重点	記録	評価規準 [評価方法]
1 ～ 2	・革のよさや身の回りの革製品などについて調べてまとめ、発表する。 (班活動)	態	○	・革の素材を生かした作品の鑑賞の学習活動に意欲的に取り組んでいる。 [活動の様子、ワークシート]
3	・世界のさまざまな模様を調べてまとめ、友だちと共有する。	態	○	・世界のさまざまな模様のよさや美しさを味わい、学習活動に意欲的に取り組んでいる。 [活動の様子、ワークシート]
4	・デザインを考える。 ・誰が使うのかということや、革の特性などから発想を広げ、使いやすさと美しさの調和を考えて主題を生み出し、表現の構想を練る。	思	○	・使いやすさと美しさなどの調和を考え、表現の構想を練っている。 [活動の様子、ワークシート]
5～ 6	・刻印棒とスーベルカッターを使って、模様をつけていく。 ・道具の使い方を理解し、正しく使う。	技		・材料や用具の特性を生かし工夫して表現している。 [作品、活動の様子]
7	・染色をする。 ・色の見本を見ながら、つくりたい品のイメージに合う色で染色する。	知 技		形や色、質感などが感情にもたらす効果や造形的な特徴をもとに、革ならではのよさや美しさを全体のイメージで捉えている。 [作品、活動の様子]

8	・仕上げをする。 ・磨き剤で磨いて仕上げる。	技		・材料や用具の特性を生かし、工夫して表現している。 [作品、活動の様子]
9	・かがり縫いをする。	技		・材料や用具の特性を生かし、工夫して表現している。 [作品、活動の様子]
10	・お互いの作品を鑑賞する。	態	○	・革の特徴を生かした作品の鑑賞の活動に取り組もうとしている。 [発言の内容、ワークシート]

6 本 時

(1) 目 標

使う人に合った美しいデザインを考えることができる。

(2) 展 開

時間	学習活動	指導上の留意点	学習活動における 具体的評価規準	評価方法
3分	1 本時の活動とめあてを知る。	○革の特性や使用する人に配慮した美しいデザインを考えるということをおさえる。		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 使う人に合った美しいデザインを考えよう。 </div>				
7分	2 本時の活動の内容を確認する。	○模様の付け方が2種類あることを伝える。 ○1人1台端末を使ってのデザインソフトの操作の仕方を教える。		
25分	3 デザインを考える。	○前時の世界のさまざまな模様調べを振り返るように指導する。 ○デジタルで取り組むことのよさを生かして、何度も試行錯誤して考えられるように指導する。	・使う人や革の特性を考えて工夫して表現している。 ・ものづくりのおもしろさや喜びを味わい、やりがいを感じながら、学習活動に取り組んでいる。	作品 活動の様子
12分	4 発表をする。	○様々な表現のよさや美しさを感じさせ、見方を広げられるようにする。		
3分	5 振り返りをする。	○考えたアイデアを保存して次時の制作に使用できるようにする。		

(3) 評価及び指導の例

「十分満足できる」と判断される状況	<ul style="list-style-type: none">・使用する者の気持ち、革の特性などから主題を生み出し、使いやすさと美しさなどとの調和を考え、全体のイメージを捉えながら表現の構想を練ることができる。・ものづくりのおもしろさや喜びを味わい、やりがいを感じながら、主体的に主題を生み出し、革の特性や使用する者の気持ちを考えて学習活動に取り組んでいる。
「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な指導	<ul style="list-style-type: none">・これまでの学習を振り返らせることで、使用する者の気持ち、革の特性などから主体的に主題を生み出して取り組めるようにする。・1人1台端末の操作が分からない生徒は机間指導をする。・つまずきのある生徒は、机間指導で実際にやってみせる。